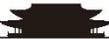
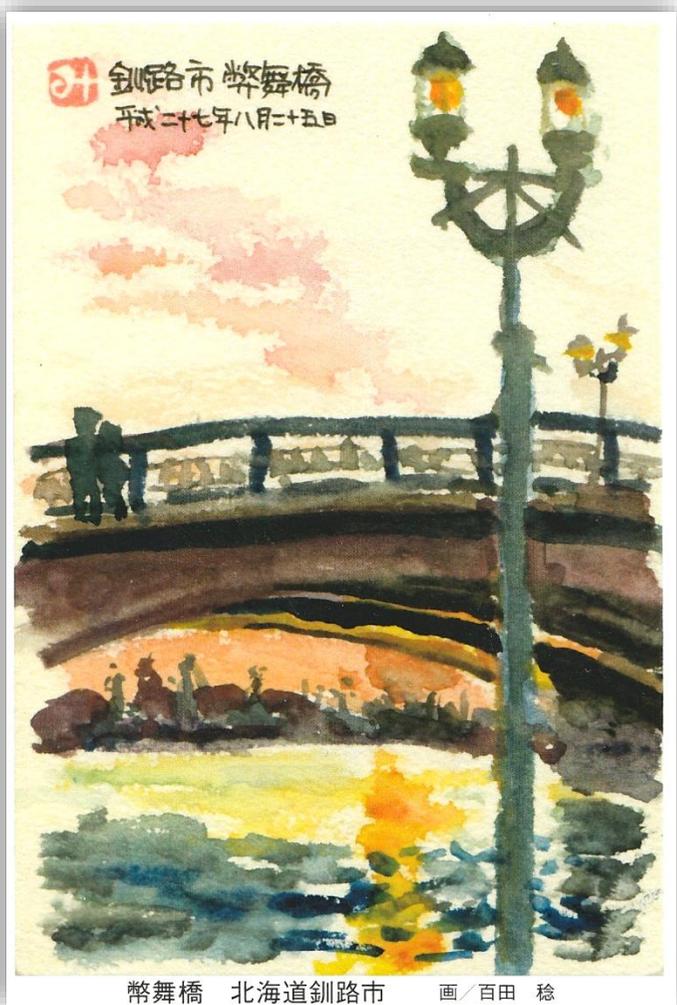




浄土真宗・お東  
真宗大谷派 どうじょうじ  
道誠寺報  
No.75  
2023年1月28日発行

宗祖親鸞聖人 **850<sup>th</sup>**  
御誕生 **800<sup>th</sup>**  
立教開宗  
 真宗大谷派（東本願寺）

3月25日(土)から  
4月29日(土)まで  
京都・東本願寺にて  
慶讃法要が勤まります



 南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

# 道誠寺 行事日程表

<u>春季彼岸法要</u>	3月23日(木)14時
<u>盂蘭盆会法要</u>	8月15日(火)15時
<u>秋季彼岸法要</u>	9月21日(木)14時



俗名	法名	俗名	法名
<input type="checkbox"/>	釋尼	○	釋○
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	○	○
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	○	○
<input type="checkbox"/>		○	



**春秋彼岸・盂蘭盆会について**

お寺の本堂では、参詣された皆さまと法要をご一緒にお勤めしています。

**ご参詣のご都合がつかず、御布施を現金書留や銀行振り込みにてお送りくださる方は、亡き故人さまの法名、俗名をお知らせください。**

振込先は  
 ゆうちょ銀行 宗教法人 道誠寺  
 店名 〇五八 ゼロゴハチ  
 普通預金 5129219

ご自宅への戸別の参勤も承っていますので、ご依頼ください。

# わだちでブツダ

老 いや病を思いながらの日々の暮らし。

ブツダとなる前のお釈迦さまも、老い、病、やがて迎える死を想って出家されたのです。

そんなブツダの教えの中に、「いま」を生きるヒントをさがしてみませんか。手をあわせる土曜の朝のひとときをご一緒しましょう。

2023年上半期の開催日(毎月第1土曜日 午前9:30~10:30)

1月7日、2月4日、3月4日、4月1日、5月6日、6月3日

りすとらんで轍(わだち)

JR常磐線・武蔵野線「新松戸駅」北口より徒歩1分  
千葉銀行北側の政和ビルの地下1階です。



イタリアンレストランでの聞法会です！会費 500 円  
道誠寺住職は、2月4日・3月4日に出講予定です。

## 親鸞教室

2月9日(木)13時～ 黒萩昌師

4月14日(金)13時～ 百々海真師

5月18日(木)13時～ 百々海真師

テーマは「聞法の姿勢」です。

オンライン配信なので、ご自宅から参加可能です。

その他、同朋会などの定例行事などは、ホームページでお知らせしていますので、ご覧ください！



## 行事報告



令和四年十一月十日

道誠寺報恩講 厳修

なんじ

ぎょうじや

## ご讚題 「汝」の言は行者なり

(聖典四五五頁)

講師 百々海 真師 釋真了

今日のご讚題は、親鸞聖人の言葉で、『愚禿鈔』の中に収まっている言葉です。

「汝」というのは、「あなた」という意味です。

言葉は声にもなりますから、南無阿弥陀仏が自分への呼び声として聞こえるということです。「わたし」「俺」を中心に据えて、物を見聞きし考えて生活しています。その私が「あなた」として、呼び覚まされるのです。「わたし」が「あなた」に転換する。「わたし」を出た智慧から、初めて「汝」、「あなた」と、呼び覚まされる。それが教えに出会う、仏さまに会うということです。

私が「汝」として見いだされる時、「我」は如来、仏です。如来は「実語」であり、言葉です。

真実の言葉が届く時には、いつも「あなた」と凶星される、言い当てられるのです。

「汝の言は行者なり」とは、「汝」と呼ばれる時、本願の行者が誕生するということです。行者がいて、「汝」と呼ばれるのではない。「汝」と聞こえる時が「行者」の誕生なのです。

親鸞聖人は「行者」という言葉を大事にされています。「行者」と聞くと、聖道門、山の仏教をイメージしますが、「正信偈」にも「行者正受金剛心」と、「行者」という言葉が使われていますね。

「汝」と呼ばれるところに、本願の行者、念仏の行者が誕生するのだと。一回きりではなく、生涯を通して、いつも「ああ、そうだったな、南無阿弥陀仏」と。私が「あなた」となって見える。



曾我量深先生が、

南無阿弥陀仏の南無するところに我がある  
と思っているけれども、そうじゃない。南無す  
るところに「汝」という呼びかけがあるのだ。  
本願によって「汝」と呼ばれているものとし  
て、自己を見出すのでしよう。

(曾我量深師の仰せ・宮城顛師聞書)

『浄土論註聞書寸言』本誓寺)

とおっしゃっています。私を超えた智慧から「あな  
た」と、自分のものの見方、考え方が破られるか  
たちで呼ばれる。自分を立場に物事を見ている  
狭さが初めて見える。問われる。問う者から、  
問われる者に転ずる。聞こえる瞬間、主へある  
じが転換するのです。

具体的なことを申し上げますと、石川県の松  
本梶丸先生からお聞きした話なのですが、ある  
小学校の先生が、授業で生徒たちに、昆虫につい  
ての話をしていたのです。

「人間から見た分類では、昆虫には二種類あ

ります。一つは益虫、もう一つは害虫です。益虫  
というのは何かと言ったら、人間に利益をもたら  
す、人間にとって都合がいい虫です。例えば、ミツ  
バチとか、あるいは嫌な虫を捕ってくれという意  
味で、クモも益虫です。蚕もそうですね。害虫は  
ハエやゴキブリ、あるいは農作物を食い荒らすよう  
な虫です。だから人間に恵みを与える虫が益虫  
で、人間に損害を与える虫が害虫です。皆さ  
ん、わかりましたね」と。

考えてみれば、損得の基準は人間の都合なの  
ですね。虫は虫のいのちを懸命に生きているので  
すが、私たちの都合で分けるのですね。

すると、その授業を聞いていた一人の生徒が手  
を挙げて、「先生。先生は益虫ですか、害虫です  
か」と。(笑)

子どもの質問というのは凄いですね。私たちが  
問われているのです。どう応答しますか。

実は、その先生は答えられなくて、仏法を聞  
くようになられたそうです。この先生の感性にも

感服しますね。実は答えられないのですよ。そこに人間の本当の意味での誠実さがあり、また誠実さの壁があります。

先生は、生徒の質問によって真実に触れたのでしよう。その生徒の言葉こそ、「汝」ですよ。

「皆さん、わかりましたね」と言った先生自身  
がわからなくなった。立場が転じたのです。立脚地の転換、主体の転換ですね。

その先生の授業は、学習内容としては決して間違っています。正しいのです。ですが、真実は人間の正しさを破る光としてはたらくのです。

(ご法話一部抜粋)

師は、「仏法聴聞は、何かがわかることではなく、まっさらに帰らせていただくことである」と仰せくださいました。

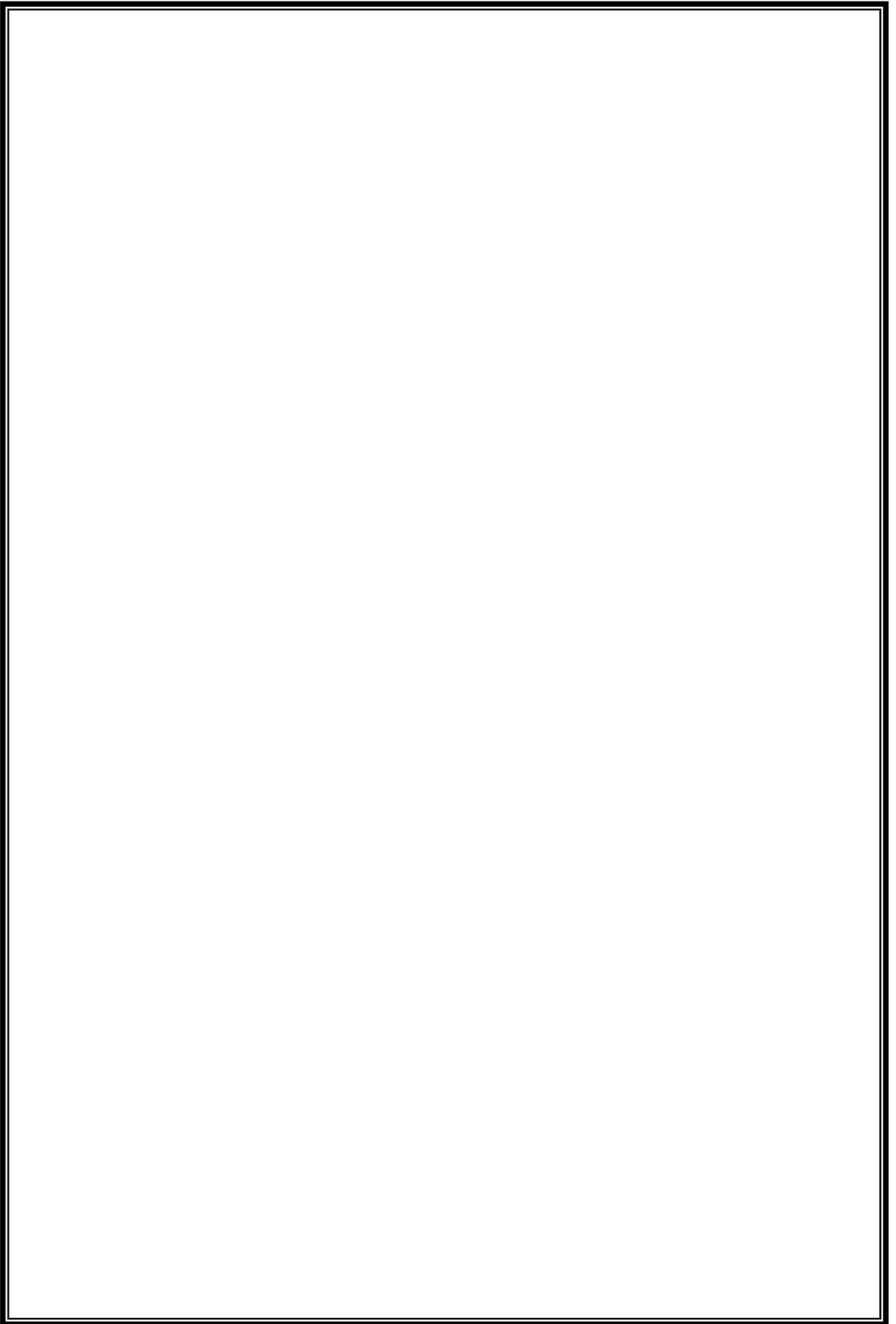
生きるうえで悩んだり、愚痴をこぼすことし  
がなく、まっさらに帰ることのできない私こそ、い  
よいよ仏法聴聞です。報恩講へお参りください。

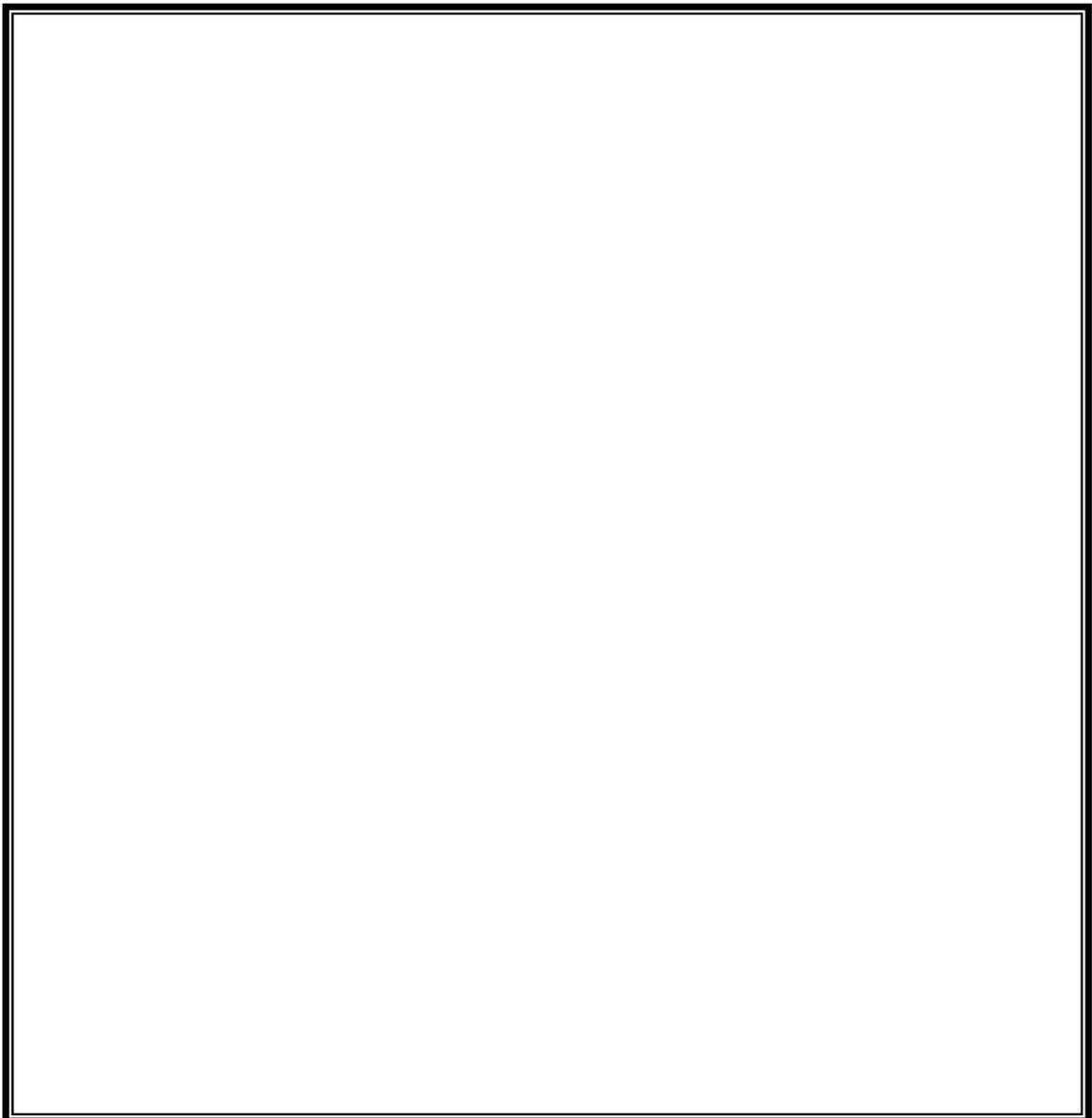


## 修正会(しゅしょうえ)



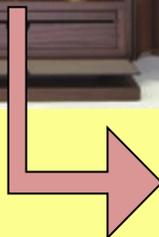
新しい一年の始まりに「正信偈」をお勤めし、  
一年の抱負を語り、お屠蘇をいただきました！





お内仏(お仏壇)の中心にご本尊「阿弥陀如来」をご安置ください。

ご本山(真宗本廟・東本願寺)からお受けできますので、お寺までお問い合わせください。



## ○通夜・葬儀をお勤めします。

段取りやわからないことなどがあれば、お寺までご相談ください。お布施については随意です。

(ただし、院号法名や東本願寺・真宗本廟に収骨をご希望の方は、ご本山に相続講金をお納めしますので、ご相談ください) **TEL 047-337-5305**

## ○年忌法要(ご法事)をお勤めします。

本堂、ご自宅のお内仏前、(墓前)でお勤めします。日程や場所がお決まりになりましたら、お寺へご連絡ください。

### 令和5年(2023年)度の年回忌案内

回忌	命終された年
1周忌	2022年(令和4年)
3回忌	2021年(令和3年)
7回忌	2017年(平成29年)
13回忌	2011年(平成23年)
17回忌	2007年(平成19年)
23回忌	2001年(平成13年)
27回忌	1997年(平成9年)
33回忌	1991年(平成3年)
50回忌	1974年(昭和49年)

# あどがき

▼新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを「五類」に引き下げることについて協議されていますが、今後、ご葬儀やご法事などの仏事、お寺の行事は、感染症対策のもと執り行い、また読経中もマスク着用していきます。▼暁烏敏師の直弟である西村見暁師の論考を集めた新刊『有縁の知識』が発刊されました。一冊千円です。西村師が感懐されている切れ味鋭い仏法が書かれていて、住職オススメの一冊です。



## 有縁の知識

西村見暁師の論考を集めた新刊

西村見暁

寄稿 池田勇勝  
島崎隆民

字が大きく読みやすいです。

▼京都の真宗本願寺（東本願寺）の報恩講の結願日中にお参りしてきました。僧侶たちが体を力強く前後左右に動かしながら念仏と和讃を繰り返す「坂東曲」（ばんどうぶし）が有名です。▼私とは年齢が大きく離れていますが、法友であるT氏が先日お浄土に帰られたことをご子息さんからお聞きし、新潟県へ枕勤めに行ってきました。入院中も電話で幾度か話をしたり、退院後、故郷の新潟へ帰られ、声を出し辛そうなか、「これからだ」と仰っておられました。会いに行く約束をした矢先のことでした。生死は待たなし、無常のいのちを知らされます。南無阿弥陀仏（釋光生）



真宗大谷派 <sup>どうじょうじ</sup> 道誠寺

〒272-0804

千葉県市川市南大野

1-26-31

TEL:047-337-5305

URL:

<https://dojyoji.com/>

メールアドレス

ichikawadojoi

@gmail.com

住職 釋光生

副住職 釋潤生

前住職 釋慈敬

